

平井呈一「屍衣の花嫁」覚書

世界恐怖小説全集12「屍衣の花嫁」平井呈一訳編 東京創元社 (昭和34年8月)

「東西怪奇実話 世界怪奇実話集 屍衣の花嫁」平井呈一編訳 創元推理文庫 (2020年9月)



はじめに

「巨匠・平井呈一編訳の幻の名アンソロジー、60年の時を経て、ここに再臨！」(文庫帯より)
2020年秋、「屍衣の花嫁」復刊。世界恐怖小説全集版は以前から所有していたものの、改めて読み直した。他に翻訳の無い作品が、あの平井呈一の翻訳で読める、まさに名アンソロジーである。原作については、「怪奇小説傑作集」等と異なり、原題、作者について具体的な記載はない。

しかし、いくつかのヒントは示されている。(以下、ページ番号は文庫版による)

・「本書の第一部には、このハリファックス卿の著書や、クロー夫人の『ナイト・サイド・オブ・ネイチュア』、イングラムの『イギリス幽霊屋敷史』など、(…) 幾つか拾ってみた。」(p.10)

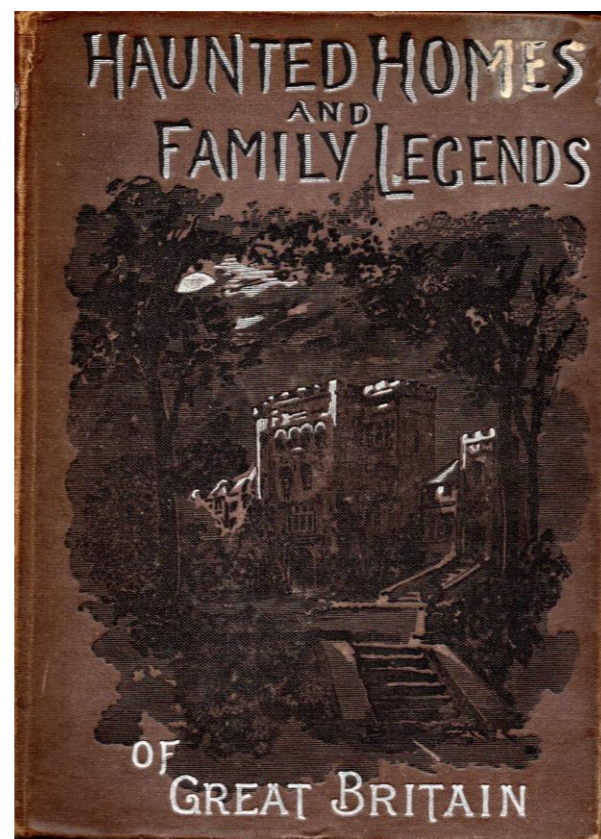
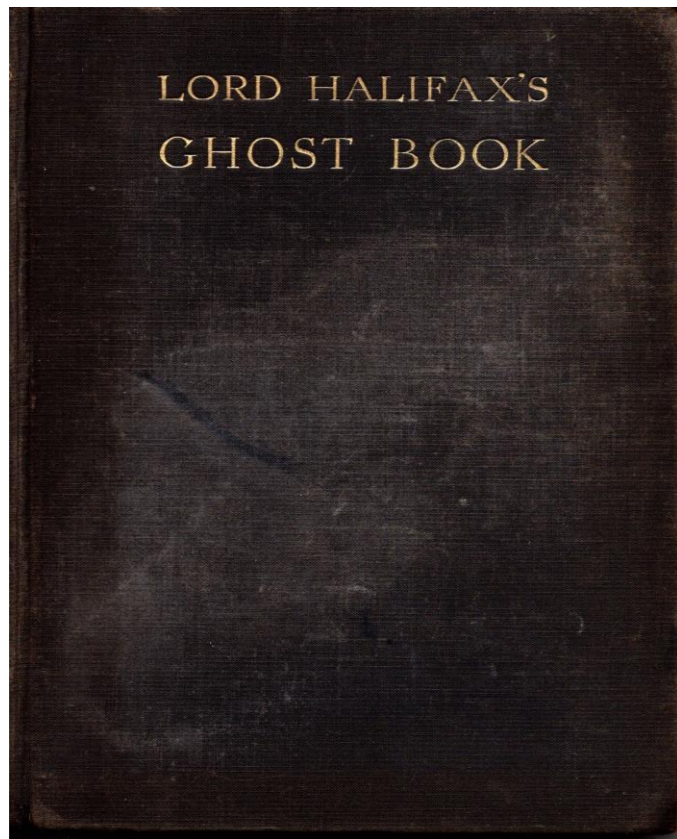
森 …と書いてあるが、Mrs. Crowe の The Night-Side of Nature は掲載なし。

「きゅうに今月に繰り上げ配本することになった」(解説) ので混乱しているのか。

NOTES

2023_11_09 表題作「屍衣の花嫁」に関する記述を追加。

2023_09_10 UP



・「"II"には、この人[E・オドンネル]のものほかに、サーストン・ホプキンスのものから幾つか採録しておいた。」(p.372)

森 "II"は相当厄介で、これまでの調査で半分も判明しなかった。調査継続中である。

DEMONOLOGY, &c. 99

speaking, of healing, of automatic writing, of the introduction of flowers and fruits into closed rooms, of voices in the air, of visions in crystals and glasses, and of the elongation of the human body." They also stated, that "many of the witnesses had given their views as to the sources of these phenomena"—"some attributing them to the agency of disembodied human beings, some to Satanic influence, some to psychological causes, and others to imposture or delusion."

Such then in brief is the Report of the Committee appointed by "The London Dialectical Society," "to investigate the phenomena alleged to be Spiritual Manifestations;" the accuracy of which I have no reason whatever to question: as it perfectly agrees with other evidence, which has been culled on this subject from many various independent sources elsewhere. And as samples of the evidence adduced before the Committee, I append the following—



Demonology and Witchcraft

In a Haunted House (「屍衣の花嫁」) 挿絵

- ・「"III"には (…) ナンドー・フォーダー博士の講演を訳出しておいた。」(p.373)
 森 これは、その通りだが、こんなモノまで読んでいるとは、平井翁、畏るべし。

すべての原作が判明してから発表したかったが、こちらの人生の残り時間も限られているので、今回アップすることとした。
 新たに原作が判明したものは、その都度追加してゆく。(2023年9月)

目次
 |

No.	タイトル	原題	著者・編者	収録書名
(1)	インヴェラレイの豎琴弾き	The Harper of Inveraray	Charles Lindley, Viscount Halifax	Lord Halifax's Ghost Book, Geoffrey Bles, 1936
		<ul style="list-style-type: none"> ・ Inveraray (/ˌɪnvəˈreəri/ or /ˌɪnvəˈreərə/; Scottish Gaelic: Inbhir Aora pronounced [iɲiɾʲuːrə] meaning "mouth of the Aray") is a town in Argyll and Bute, Scotland. It is on the western shore of Loch Fyne, near its head, and on the A83 road. It is a former royal burgh, the traditional county town of Argyll, and ancestral home to the Duke of Argyll. (Wikipedia) 		
(2)	鉄の檻の中の男	The Man in the Iron Cage	Charles Lindley, Viscount Halifax	Lord Halifax's Ghost Book, Geoffrey Bles, 1936
		<ul style="list-style-type: none"> ・ Lille /liːl(米国英語), li:l(英国英語)/ リール (フランス語: Lille) は、フランス北部の都市で、ベルギーと国境を接するオー＝ド＝フランス地域圏の首府、ノール県の県庁所在地である。(Wikipedia) 		
(3)	グレイミスの秘密	The Secret of Glamis	Charles Lindley, Viscount Halifax	Lord Halifax's Ghost Book, Geoffrey Bles, 1936
		<ul style="list-style-type: none"> ・ Glamis Castle is situated beside the village of Glamis /ˈɡlɑːmz/ in Angus, Scotland. It is the home of the Earl and Countess of Strathmore and Kinghorne, and is open to the public. (Wikipedia) ・ グラミス城 《Glamis Castle》英国スコットランド東部、アングス地区の村グラミスにある城。エリザベス2世の母や妹が幼少期を過ごした。シェークスピアの悲劇「マクベス」に登場する城のモデルとしても知られる。グラームス城。(デジタル大辞泉) 		
(4)	ヒントン・アンプナーの幽霊	The Haunting of Hinton Ampner	Charles Lindley, Viscount Halifax	Lord Halifax's Ghost Book, Geoffrey Bles, 1936
(5)	エプワース牧師館の怪	Epworth Parsonage	John H. Ingram	The Haunted Homes and Family Traditions of Great Britain, Gibbings & Company, 1901
(6)	ある幽霊屋敷の記録	Record of a Haunted House	R.C. Morton	Proceedings of the Society for Psychical Research Vol VIII. Society for Psychical Research. pp. 311-32 (1892)
		<ul style="list-style-type: none"> ・ 原書では、冒頭にF.W.H. Myers による序、末尾に作者ミス・モートンの親族・使用人6名による証言、屋敷の平面図が付されているが、平井訳では省略。本文末尾には、「R.C. MORTON. April 1st, 1892」と署名がある。エイプリルフールなのは、ただの偶然と考えておく。 ・ フレデリック・ウィリアム・ヘンリー・マイヤース (Frederick William Henry Myers, 1843年2月6日 - 1901年1月17日) は、古典文学者、詩人、心霊研究の開拓者として知られる。また初期の深層心理学研究における重要な研究者であり、ウィリアム・ジェームズ、ピエール・ジャネ、テオドール・フルルノワ、カール・グスタフ・ユングらに影響を与えたとされている。…1880年代に、師であるヘンリー・シジウィックらと共に心霊現象研究協会 (SPR) を創立した。(Wikipedia) 		

No.	タイトル	原題	著者・编者	収録書名
(7)	死神			
(8)	首のない女	THE HEAD: A DERBYSHIRE HAUNTING	Elliot O'Donnell	HAUNTED PLACES IN ENGLAND (SANDS & CO. 1919)
		・原作には、幽霊の顔まで確認する条がある一方、平井訳に出てくる姉妹による殺人事件の因縁話は無い。原作の別ヴァージョンがあるのか、平井独自の改作なのかは、不明。		
(9)	死の谷			
(10)	女好きな幽霊			
(11)	若い女優の死			
(12)	画室の怪			
(13)	魔のテーブル			
		Robert BrownのDemonology and Witchcraft (p.99) に同じ "事件" を扱った話があり、Google Books で読むことができる。		
(14)	貸家の怪			
(15)	石切場の怪物			
(16)	呪われたルドルフ			
(17)	屍衣の花嫁	IN A HAUNTED HOUSE	(Anonymous)	THE ARGOSY. DECEMBER, 1883 (THE ARGOSY, vol.36, p498)
		The Glass Staircase	Anon.	CAVALCADE OF GHOSTS (WORLDS WORK, 1956)
		<ul style="list-style-type: none"> ・冒頭の「(この話の草稿は…)」の部分はThe Argosy本誌には無く、CAVALCADE OF GHOSTS収録の際に付け加えられたものと思われる。原作者が書いたのか、編者が補足したのか、今となっては知りようもない。原文では百数十語あり、草稿の来歴が語られているのだが、平井は一行に端折って訳している。 ・R・サーストン・ホプキンス編著の CAVALCADE OF GHOSTS の内容は、前半パート1がホプキンスによる幽霊実話、後半パート2が他作家による創作幽霊譚で構成されており、作者不詳とされる「屍衣の花嫁」は、パート2に入っている。やっとホプキンスの名前が出てきたw ・平井訳の「比翼連理」(p.268)、原文では、"DOOMED, BUT TOGETHER."である。 		
(18)	舵を北西に			
(19)	鏡中影			
(20)	夜汽車の女			
(21)	浮標			

No.	タイトル	原題	著者・编者	収録書名
(22)	ベル・ウィッチ事件	THE CASE OF THE BELL WITCH	Nandor Fodor	HAUNTED PEOPLE: STORY OF THE POLTERGEIST DOWN THE CENTURIES (E.P. DUTTON & CO.,INC., 1951)
		<ul style="list-style-type: none"> ・冒頭の紹介文は平井によるものと思われる。 ・ホエイトリ博士の「サイコン」理論 (p.365) の部分は若干端折って訳している。 ・本編とは関係ないが、363ページで、THE TALKING MONGOOSE について注釈を入れており、「物言うキツネザル」と訳しているが、当時のスケッチを見ると、フツのマンガースのようだ。マンガースがマン島にいるのかどうか、知りませんが。 		
		 <p>George Scott's sketch of Gef the talking mongoose, from 1936</p>		